第72回卒業式

未来のグローバル・リーダー72期生 新たなるステージへ

３月２日，第72回卒業式を挙行しました。国歌静聴の後，卒業証書授与があり，担任が一人一人心を込めて呼名。310人の卒業生の返事は，惜別の思いと旅立ちへの強い決意，そして先生方や保護者への感謝が込められたものでした。

西橋校長は式辞の中で，３年前の入学式で吹奏楽部が演奏する「せごどん」に乗って高校生活をスタートさせた72期生の姿とこれまでの歩み，そして，コロナ禍という予測だにしなかった状況の中で甲鶴戦，県総体といった学校内外の行事の中止や日常を奪われた卒業生の境遇をお話しされ，涙する場面もありました。そして，次のステージへと進む卒業生に，「笑顔を絶やさず」，「地球規模でものを考え行動するリーダーたれ」との二つの言葉を贈るとともに，保護者への祝意と謝辞を述べました。３年間を72期生とともに歩まれた西橋校長の思いと未来へ旅立つ後輩へのエールが込められた式辞でした。

在校生代表の増田海亜さんは送辞の中で，フランスの諺「素敵な靴は，あなたを素敵な場所へ連れて行ってくれる」という言葉を引用し，「人生で磨き上げた自分ただ一人の特別な靴をさらに磨き上げて，素敵な場所へ突き進んでください」と餞の言葉を贈りました。

卒業生代表の今別府新さんは答辞の中で，周囲への感謝を述べ，特に，両親への言葉では感涙にむせぶ場面でもありました。そして，「どんな困難があったとしても，甲南高校で培った気高さ，優しさ，健やかさ，すべてを私達のかけがえのない力として，未来を切り拓いていきます。」と強く決意を述べました。

卒業生代表，住吉駿平さんの記念品贈呈，そして，マスク越しに歌う校歌斉唱は心に響く感動的なものでした。卒業生は音楽部の歌声，吹奏楽部の演奏の中，保護者，職員の拍手に包まれ，退場していきました。

その後，ＬＨＲは各クラスや感染症対策により，一部特別教室にて行われました。卒業生は甲南高校での３年間の思い出をそれぞれの言葉で語り，涙ありの笑ありの和やかな時間となったようです。

新しいステージでの72期生のますますの活躍を期待しています。

卒業生から在校生へ

「自分を成長させるために」

一組　田代　葵

私は甲南高校での三年間で大きく成長できました。日々の学習や学校行事は勿論のこと，英語ディベートや模擬国連大会への出場など沢山の経験をする中で，時には自分の力量不足を痛感しながら，試行錯誤し努力を重ねてきました。また自分が成長できたのは家族・先生方・友人の支えや励ましがあったからです。感謝してもしきれません。

高校生活を通して私は二つ実践してきたことがあります。それは「諦めず努力すること」と「常に目標を持つこと」です。私は高校二年生の夏，課外活動・部活動・勉強と多忙な毎日に心が折れ，模擬国連大会への出場を断念しようとした時があります。それをある先生に相談した際「諦めるのは簡単だけど，苦しいのは経験値が少ないからで，成長するには乗り越えるしかないんだよ。」と助言をもらいました。この言葉があったから，成長するために弱音を吐かず全てやり遂げることができました。諦めることは自分の成長を自分で止めてしまうことです。「できるようにするためにはどうすればよいか」を常に考えることで自分を成長させることができます。また，その努力を継続していくためには目標が必要です。この経験を通して自分がどうなりたいのか，それを達成するには何をどう頑張ればいいのかを明確に定めてください。三年間は本当にあっという間でした。充実した高校生活を送れるか，甲南高校での生活を有意義な時間とできるかどうかは自分次第です。目標に向かって頑張ってください。

これから受験を迎えるみなさんへ

六組　大黒　詩織

私は甲南での三年間を通して，本当にたくさんの経験をし，多くの新しい知識を得ることができました。しかし，何をするにもやる気が出なかったり大学すらどこでもいいと開心が持てなかったりした時期もありました。努力しようとしても続かないことがあり，その度に自分の弱さにイライラして何に対しても頑張っている友達が輝いて見えました。それでも少しずつ頑張っていく中で，その〝少し〟が積み重なっていき，最終的

保護者から

第二の母校

谷山富貴子

四月とは思えぬ冷たい風の吹く中「入学式」の看板の前で家族写真を撮った喜びの日がまるで昨日のことのように思い出されます。

三年生の一年間はコロナ禍により，最後の甲鶴戦や部活動の大会などが中止となり，幾度となくやるせない思いをしました。息子もあまり言葉にすることはありませんでしたが悔しい思いをしていたことと思います。

そんな中，体育祭は三年生保護者が観覧することができました。そのおかげで私が入学当初より楽しみにしていた息子の浴衣姿や友人たちと笑顔で楽しんでいる様子を見ることができました。さまざまな制約がある中，実施に対して先生方が心を砕いてくださったことに感謝の気持ちでいっぱいになりました。

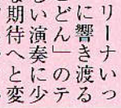
また，私はご縁があってＰＴＡの役員となり，二年間甲南高校の伝統行事である薩摩半島縦走に関わらせて頂きました。今年度の縦走はコロナ対策のため例年とは湯茶接待の方法を変更しましたが，甲南生たちのゴールを目指して懸命に頑張る姿，ゴール後の明るい笑顔，湯茶接待の保護者への礼儀正しさなどを間近で見ることができ，とても貴重な経験となりました。

三年間お世話になった先生方，クラスや部活動の仲間たち，本当にありがとうございました。息子だけでなく家族にとっても楽しい高校生活でした。そして甲南高校は私にとっても第二の母校となりました。

コロナ禍の収束の兆しの見えない状況はまだ続きますが，在校生の皆さんが明るく充実した高校生活を送れることを心から祈っています。

ご縁に感謝

岩切　彩子



アリーナいっぱいに響き渡る吹奏楽部の「せごどん」のテーマ曲の素晴らしい演奏に少しの不安が大きな期待へと変わった入学式から，あっという間の三年間。娘にとっては自ら考え行動することを様々な場面で体感し，苦しい事の方が多かったと思いますが，先生方の大きな支えと仲間の有難さを感じ過ごした充実した三年だったと思います。ご縁を頂き，ＰＴＡ進学部の役員になり，二年生では学校と先生方のご尽力により実現した新幹線を利用しての研修視察，進路座談会では，企画や進行など貴重な体験をさせて頂きました。残念ながら今年度は進学部としての活動を行うことは出来ませんでしたが受験に向かう家庭での取り組みを見つめ直す良い機会になると感じましたので，新しい形で続いてほしいと思っております。

当たり前だと思っていた日常が当たり前でない事を痛感した日々。先生方には，時に真正面から，時にはそっと背中を押し自粛期間中もメールや動画で励まし，見守って頂き，感謝の気持ちでいっぱいです。もどかしい思いも多く残る日々でしたが，その分，甲南高校の仲間と学び，共に笑い，分かち合ったこの尊い時間がこれからの人生の糧となり，新しい未来を輝かせてくれると，と信じています。有り難いご縁とたくさんの感動を頂けたことに心から感謝を申し上げます。

大学入学共通テスト教科分析

1・2年生へ向けて学習のアドバイス

（世界史Ｂ）

資料が多いことに惑わされがちだが，今まで通り知識があれば十分に高得点を狙える。多少資料分析力や文章読解力を求める設問もあるが，分析力・読解力だけでは得点できない。強いて違いを挙げれば，複数の知識をつなぎ合わせる設問が増えたことだが，これは十分な問題演習で対応可。「多面的・多角的に考察する力」などと言われているが，結局は知識量が多い人ほど有利である。これまで通り「タテの流れ」と「ヨコのつながり」の理解が大事。結局は「今まで通り」，知識なくして考える力は生まれない。

（日本史Ｂ）

これまでのセンター試験の出題内容を踏襲した知識・理解の質を問う問題と，史資料を読解し，多面的に考察する問題がバランスよく出題されていた。設問数は36問から32問に減少したが，資料問題の増加により，やや時間を要すると思われる。社会経済史や文化史の問題が比較的多い印象である。試行調査と比べると，解答が複数存在する問題等は出題されず，標準的な問題が多かったため，昨年度と同程度の難易度だった。

（地理Ｂ）

通常の地理の既習範囲からの出題もあるが，図やグラフが多く問題文が長くて問い方が変わっており，思考力・判断力・読解力・分析力を問う問題が多く出題された。それは例えば，①隔海度，②雨温図，③自然災害，④山と氷河，⑤氷水，⑥融氷水，⑦バター・アイスクリーム，⑧人口分布図などがある。今後もこの問題文の主旨は何なのかを読み取る力や思考力・分析力が必要であるとともに　日頃から正しい日本語を使う事を心がけるべきである。

（倫理・政経）

大問数は7で，昨年のセンター試験と比べて大問が一題増加した。解答数は33個で，昨年のセンター試験と比べて4個減少した。「倫理」は4大問で解答数は16個，「政治・経済」は3大問で解答数は17個。また，昨年のセンター試験と同様，「倫理，政治・経済」の独自の設問はなかった。問題量は昨年のセンター試験に比べ増加，特に政治・経済分野で大幅に増加した。昨年センター試験よりやや難化の傾向。

（国語）

センター試験の出題傾向を踏まえつつも，複数の文章を多面的・多角的に読むという共通テストの出題方針に沿った出題であった。生徒の作成したノートや，作品が発表された当時の批評，和歌についての文章が付されるなど各大問で，応用的に考える設問が見られた。時間内に増えた情報量を処理する力も求められる。漢字や語句の意味，重要語や古典文法などについては，これまで同様基礎的な知識を問うものであった。

（英語・リーディング）

すべて読解問題となり，日常的なものから意見文や叙述文まで様々な内容が扱われた。設問では意見と事実の区別を問うものやプレゼンテーションのスライドを完成させるもの等が出題された。読解量が昨年のセンター試験（約2，800語）から約3，900語と大幅に増加し，多面的に情報を処理することが求められたものの，難易は昨年センター試験並であった。

配点は100点で，大問数6は昨年のセンター試験と変わらなかったが，解答数は昨年54個から47個に減少した。模擬試験や出版されている演習問題と比較して，後半の大問の点数配分が減り，前半の問題の配点が高くなっていた。

読解量の大幅な増加に対し，全国平均点は昨年並みであった。英文読解に関して全国の受験生がスピードと正確さを身につけてきているためと考えられる。日常的にまとまった英文に触れ，読みながら要点を自分で拾い上げていく力を身につけていく必要がある。

（英語・リスニング）

昨年のセンター試験と比べて音声情報と図表などの視覚情報を組み合わせて答える問題が増えた。各場面や目的に応じた聞き取りを要する，実践的な英語力が問われた。難易度の高い第3問以降の音声は1回のみの放送となり，重要な情報を逃さずに聞き取るための情報処理能力と高い集中力が必要とされる。日頃からまとまった分量の英文を，メモをとりながら聞いて情報を整理する力を身につけておく必要がある。

（数学ⅠＡ）

昨年のセンター試験と同様，大問数は5問であり，数値を答える形式が中心であったが，適切な語句や文章を選択する問題が10題程度出題された。必答問題の第1問は数学の事象に関する問題，第2問は現実の事象に関する問題が出題された。また，第1問〔1〕と第3問で会話形式の問題が出題された。総ページ数は23～24ページで，昨年のセンター試験より増加した。難易度は昨年センター試験より易化。

（数学ⅡＢ）

例年，数値を答える形式が中心であるが，共通テストでは解答群から選択する問題が多く出題された。必答問題の第1問，第2問と選択問題の数列はどれも最初は具体的な数値で考察させ，最後は一般化する数学の基本的な考え方の出題であった。選択問題のベクトルは正五角形，正十二面体を題材にした問題が出題された。総ページ数は，昨年のセンター試験より増加したが，計算量は減少し，難易度は昨年センター試験より易化。

（物理）

全分野から出題され，複雑な手順で計算をもなう問いが減り，実際にある現象・素材を題材に教科書の基礎基本の内容から考察する問いが多くなっている。図やデータの読み取り，グラフにより変化を表す力が必要であり，一問一答的な知識でなく現象を筋道を立てて論理的に理解しておかなければならない。また，日頃の学習でも，身の回りの事象・現象を物理的・科学的な視点でとらえていくことが必要である。

（化学）

読解力・思考力を必要とする問題が増加した。具体的には，初見の反応式等の説明の文章を読み，既習事項の知識と比較しながら，「たぶんこんな反応が起こっているはず。」と想像することが出来る能力が必要である。

対策としては，図説等もよく見て，「なぜこの反応が起こるのか。どんな原理でその現象が起こるのか。」を考えながら普段の授業や学習に取り組むことが必要である。また，毎回の実力考査では長めの会話文を用いた問題を出題します。試験の時，試験後の訂正の時，問題をしっかり読みこなして，試験に生かせる読解力の向上を目指そう。

余裕があれば，ブルーバックス等の科学系の新書を読んで，科学系の文章にも慣れる努力をしてほしい。

（生物）

過去のセンター試験と比べると，大問毎に分野を分けた問題ではなく，ほとんどの大問で分野融合問題が出された。複数の資料の読み取りが必要であったが，今年の場合は題意が把握できれば解答しやすい問題が多かった。試行問題や模試の問題で難易度が上がっていたので，だいぶ構えて臨んだが，解きやすい内容であった。

（生物基礎）

昨年のセンター試験と比べると，設問文が長くなり題意の読み取りに時間を要するとともに，考える要素が増え，考察力が問われるようになった。教科書の重要語句もしくみや背景とともに理解しなければならない。また，新聞やニュースで取り上げられている，環境や身近な生き物，健康などの社会と関連した資料を読む際に，教科書で学んだ内容とのつながりを考える姿勢を身につけておきたい。（例：ウィルス感染など）

（地学基礎）

教科書に載っている基本的な内容から満遍なく出題され，岩石に関する実験・観察，天気や宇宙の様々な図やグラフを読み取る力などが問われた。教科書の用語をただ覚えるだけではなく，「なぜそうなるのか」を考え，しっかりと理解することが大切。また，基本的な計算力も必要である。教科書を隅々まで読み込み，図を用いて整理することで，基礎基本を定着させましょう。